５　南薩地域の特性を生かした稼げる果樹産地の育成

施設きんかん産地の維持支援

成果の要約

１　現状調査を行い，園地データベース化と園地流動化支援によるブランド産地維持に向け，園地マップの整理と情報のＤＸ化を進め，経営継承について検討した。
２　全園調査等の結果を検討等で活用し，生育に応じた栽培管理指導ができた。
３　重点農家に対してヒアリング，個別巡回を行い，技術や経営改善について検討できた。

１　対象

（１）南さつま農協果樹部会
ア　施設きんかん春姫栽培農家 42 戸
イ　きんかん重点農家７戸

２　課題を取り上げた理由

（１）ブランド品目であるきんかんの生産・販販売において，高齢化による廃作者の増加や後継者不足による栽培面積の減少，また収穫・選果選別・防除作業等の労働力確保が年々困難になっている。そこで，産地維持に向けた園地流動化・マッチング支援に取り組むにあたり，関係機関で園地や生産者情報の共有を図る必要がある。
（２）生産性，及び品質向上を図るため，障害果実発症要因解明と抑制対策検討を進める必要がある。
（３）新規就農者の栽培技術レベルが低いため，単収の引き上げや品質向上による所得の向上を図る必要がある。

３　活動の内容及び成果

（１）園芸振興協議会果樹部会のメンバーでの定期的打合せ
ア　果樹全般の生産振興対策についての打合せは，園振協果樹技術部会メンバーで定期的（毎月１回）に行った（写真１）。
　きんかんについては，振興方策，技術課題の整理及び対策検討を行い，活動を展開した。また，現状調査を実施し，とりまとめを行った。また，経営継承等について検討し，南さつま市では果樹園地バンクを設置した。



写真１　果樹定例会の様子

（２）全園調査の実施
　園振協メンバーで年３回（春のビニル被覆の有無，着果確認調査，収穫前調査）園地調査を，JA で作成した紙媒体の園地マップに基づき実施し，調査結果の整理や連動した園地情報の活用方法について検討した（写真２）。



写真２　全園調査の様子

（３）定点調査

加温１か所，無加温３か所で７月から，２週間おきに果実肥大等の生育調査を行った（写真３）。その結果を取りまとめ，随時，講習会等での栽培管理指導に活用した。

課題となっている障害果実（異常黄化・奇形果）の発生はやや多かった。



写真３　定点調査の様子

（４）検討会の開催

６月 19 日，８月 28 日，11 月 10 日にきんかん春姫現地検討会（写真４，５）を開催し，それぞれ開花期前後の温度・かん水管理による着果対策，摘果やかん水，芽かきの徹底による果実肥大促進対策，障害果対策，収穫前の着色促進対策など，その時期における栽培管理の重要性について説明し，管理の徹底を図った。



写真４　検討会の様子（資料説明）



写真５　検討会の様子（現地での検討）

（５）重点農家の育成

就農５年以内の農家はじめ，技術習得支援が必要な７名に対して，具体的な支援策の検討及び実践に取り組んだ。個別ヒアリング（写真６）では，前年度の取り組みの反省と，実績をもとにした新たな栽培課題を設定し，重点農家の園地を巡回し，個々に応じた技術習得支援に取り組んだ。



写真６　個別ヒアリングの様子

４　今後の課題

（１）園地・技術情報 DX 化と経営継承等に向けた活用支援

（２）きんかん障害果実（異常黄化・奇形果）対策，落果防止対策等による単収の引き上げ

（３）重点農家の技術習得支援

５　担当した普及職員（〇はチーフ）

〇新村